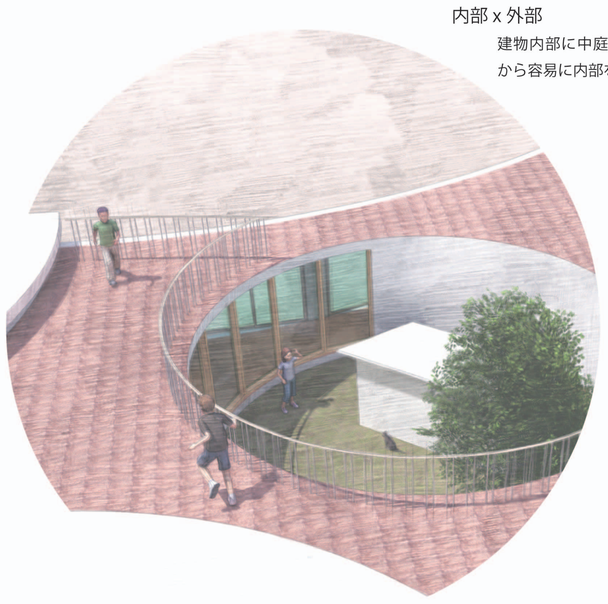
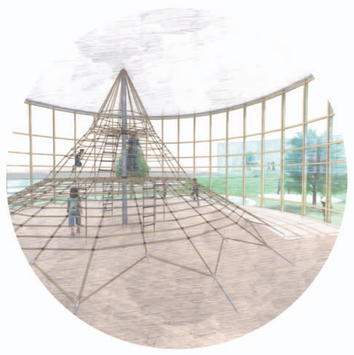
三位一体

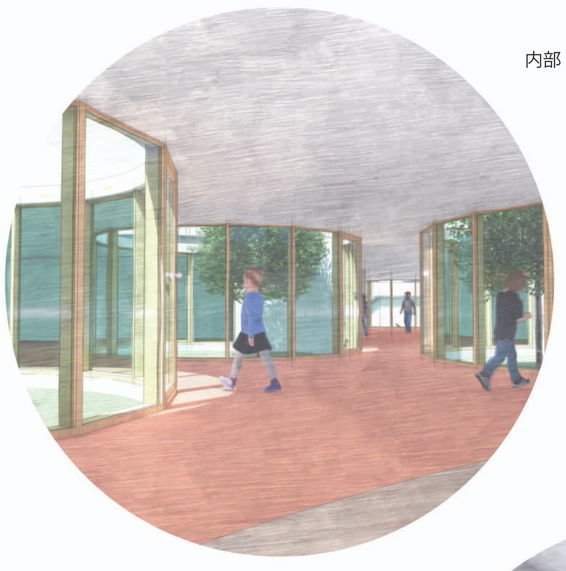
～建築・自然・遊具の一体化～



内部 x 外部

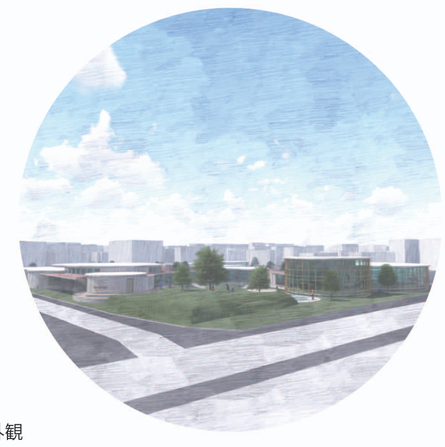
建物内部に中庭を複数設けることで、外部から容易に内部をのぞき込むことができる。





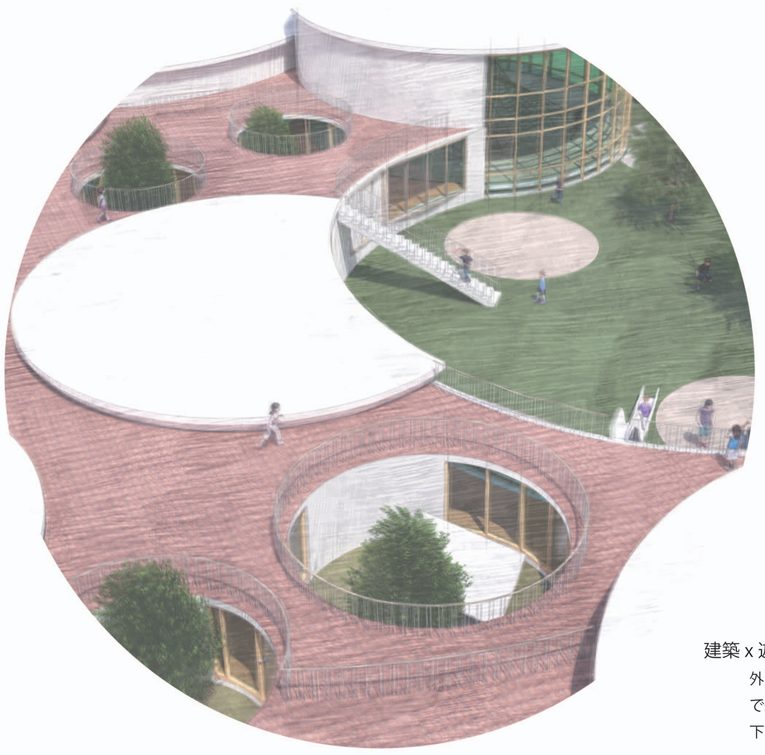
内部 x 外部

建物内部に中庭は、内部と外部を複雑に絡み合わせ、内部にいながら外を感じることができる空間を作り出している。



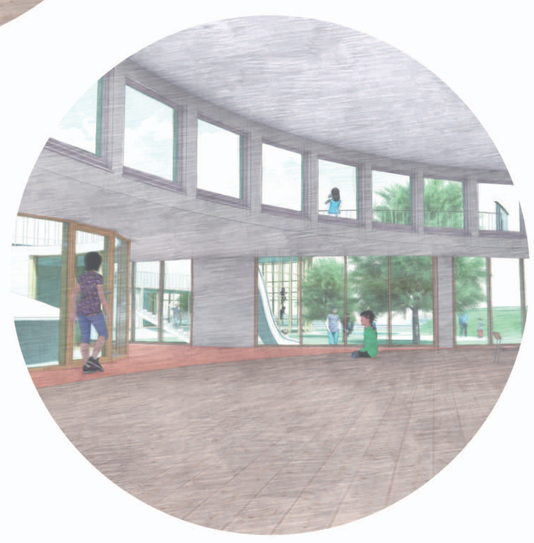
外観

建物西側の道路からは子どもたちの遊ぶ姿が垣間見え、地域の人々にとって大切な風景となる。



建築 x 遊具

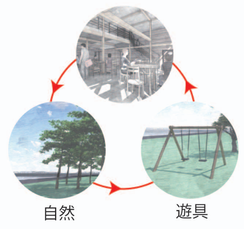
外庭の GL と建物の屋根を階段と滑り台で結び、遊具とする。子どもたちは上下階を行き来しながら走り回る。



建築 x 自然

建物内部にいながら、外ような開放感と明るさが確保されている。

建築・自然・遊具の一体化



BACKGROUND

建築・自然・遊具。この 3 つは元来同じものであり、人間は自然の中で、自然物を用いて住まいを構築し、またその中で工夫して遊び生きてきた。しかし、人は今日まで歴史を重ねる中で、これら 3 つを別々のものとして捉えている。

幼稚園・保育園において、多くは建物と園庭、遊具がそれぞれ機能として独立して配置されている。しかし、この配置の多くは大人が子どもを管理しやすいよう考えられたプランであり、子供にとっては、隣の教室の子たちの様子が見えない、自由に外・中の行き来がしにくいなど、こどもの動きを最大限生かすプランであるとは言い難い。

では子どもの可能性を最大限引き出せる建築とはどのようなものなのだろうか。

PLAN

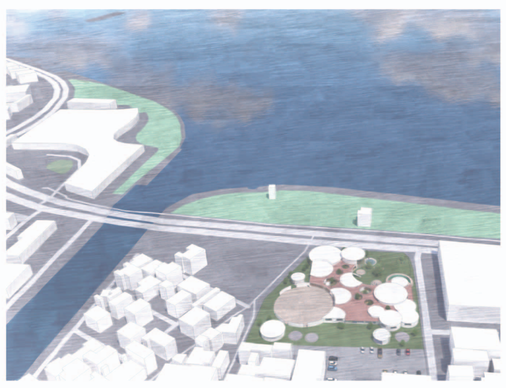
建築・自然・遊具の 3 つが交じり合うプランを提案する。

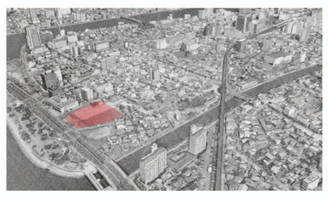
円形のプランを用いることで、内部空間と外部空間が交じり合いやすく、内部でも常に外部の自然が感じられるような空間構成となっている。

遊具は単体を敷地に配置するのではなく、地面と屋根を結びつける建築物の一部として提案し、子供たちは敷地中・建物中を走り回ることができる。

STRUCTURE

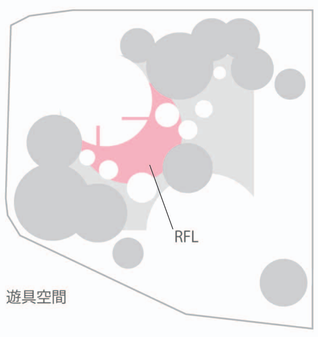
本設計の円形プランを木造により実現するため、湾曲集成材を用いた「ラウンドウォール工法」を取り入れ、壁構造による建築を可能とした。



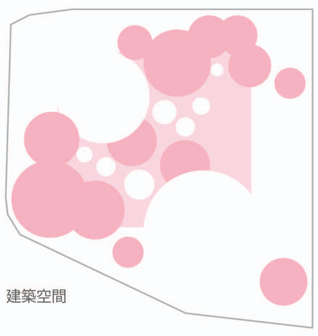


SITE

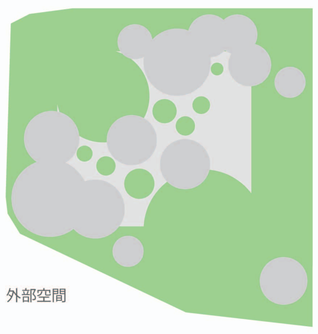
宍道湖に隣接。県立美術館と共に、調和のとれた景観デザインとした。白潟公園とのアクセスも抜群であり、地域の人々に親しまれやすい保育所である。



遊具空間

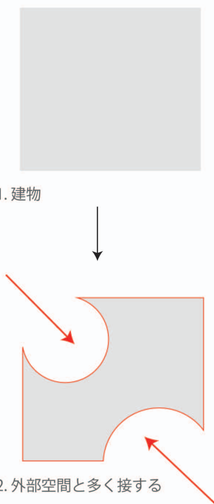


建築空間



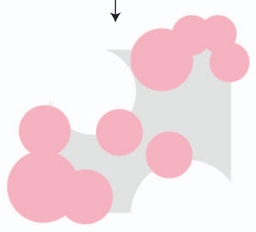
外部空間

平面図　S=1:500



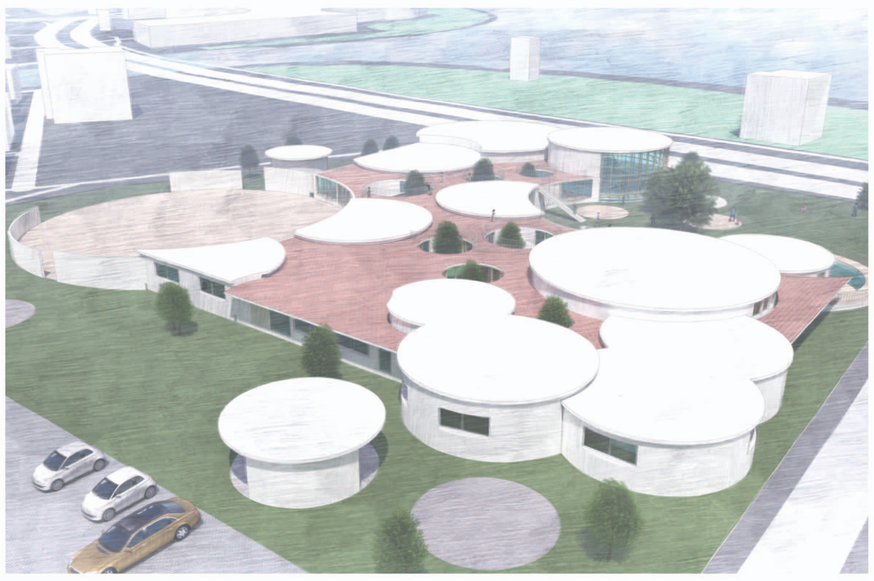
1. 建物

2. 外部空間と多く接する



3. 必要諸室の配置

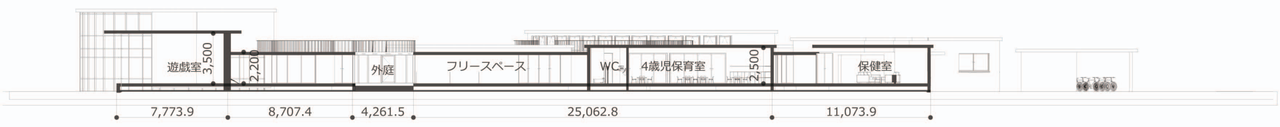
4. 外部空間を内部にも取り込む

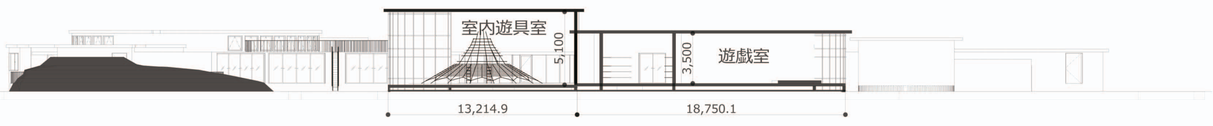


保育室

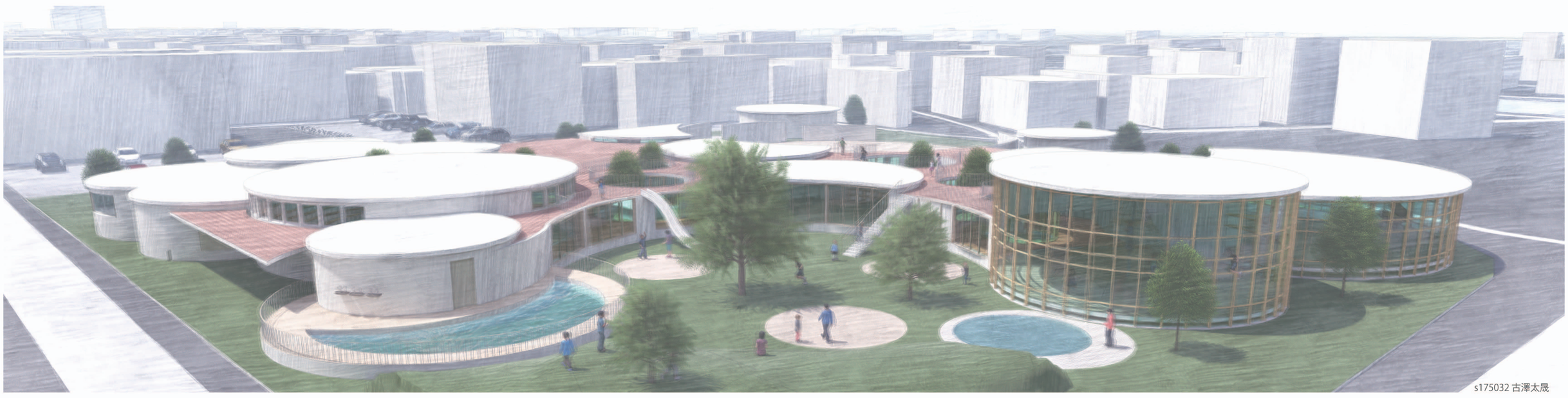
内部自由空間

回遊性





断面図　S=1:300



s175032 古澤太晟